



□■□ 事故防止メルマガ「Think」

■□■ 【発行】シンク出版株式会社 <http://www.think-sp.com/>

// // INDEX // // // // // // // // // // // //

1. 交通事故の判例ファイル
2. 飲酒運転の裁判事例（17）
3. 今日の朝礼話題から
4. 事故防止教育教材のご案内

// // // // // // // // // // // // // // // //

☆☆☆.....7月前半の暦.....☆☆☆

◆1日（日）

—国民安全の日

◆1日（日）～7日（土）

—全国安全週間

～スローガンは「ルールを守る安全職場 みんなで目指すゼロ災害」

◆1日（日）～31日（火）

—夏季労働災害防止強調運動（トラック）

—車内事故防止キャンペーン（バス）

◆7日（土）

—小暑、七夕、川の日

◆10日（火）

—7月の製品安全点検日

※詳しくはシンク出版のWEBサイト「今月の運転管理」で紹介しています。

【今月の運転管理↓】

<http://www.think-sp.com/2012/06/11/kongetsu-untankanri12-7/>

■交通事故の判例ファイル ————— . . . . .

『わき見運転による事故』

たばこの火に気をとられた「わき見運転」が原因で、小学生1人が死亡した事故で福岡地裁小倉支部は、運転者に対し懲役3年の実刑判決を言い渡しました。

【詳しくはこちら↓】

<http://www.think-sp.com/2012/06/14/wakimijiko-hanrei-2/>

■飲酒運転の裁判事例（17） ————— . . . . .

実際に起きた飲酒運転事故の裁判例をもとに、どのような刑事罰や民事罰が科せられたのかを紹介します。

—— 『飲酒運転でひき逃げをして、懲役10年の実刑判決』 ——

今回は、昨年11月に北海道江別市で起きた飲酒運転による死亡ひき逃げ事故で、運転者に懲役10年（求刑懲役15年）を言い渡した、今年6月7日の札幌地裁の判決を紹介します。

この事故は、昨年11月1日午前3時30分ごろ、配管工だった被告（男性・

当時36歳)が前日の夕方から事故直前までの約10時間にわたり、スナックやカラオケ店などで焼酎のウーロン茶割りなどを14杯飲み、車を運転して友人らと帰宅途中、信号のないT字路交差点を進行してきた軽乗用車(優先道路側を進行)と出会い頭に衝突して大破させ、運転していた新聞販売所従業員(女性・当時39歳)を死亡させたものです。

被告は、制限速度40キロの2倍のスピードで運転しており、事故の約4時間後に受けた呼気検査で、酒気帯び運転の基準値の約4倍に当たるアルコールが検出されており、めいてい状態で運転していました。

死亡した女性は、9歳と11歳の子供の母親であり、新聞配達勤務先に向かっている途中に事故にあったもので、被告らは事故後必要な救護をせず逃走し、危険運転致死傷などの罪に問われていたものです。

今回の裁判で注目されたのは、被告は前年にも飲酒ひき逃げ事故を起こしており、懲役1年の服役を終えて出所4か月後に飲酒運転事故を繰り返したことを、裁判所がどう判断するかでした。

判決のなかで、裁判長は被告が2010年5月にも飲酒運転でひき逃げ事件を起こし、札幌地裁で懲役1年の実刑判決を受けていたことに触れ、「非難はより強いものになる」と指摘し、「交通関係法規を守ろうとする意識の乏しさや捕まらなければ法を犯してもかまわないという態度がみて取れる」として、「懲役10年は下らない」と述べています。

亡くなった女性の夫は、「判決直後は頭が真っ白になった。正直、懲役10年は短いと思う。被害者にとっては20年でも30年でも足りない」と語っています。

---

### ●教育用冊子

「まさか自分が飲酒運転をするなんて！」

※仕様 B5判／8ページ／カラー刷

※価格 147円(消費税込・送料実費)

故意に飲酒運転をする人は、ほとんどいないでしょうが、前夜に飲んだ酒気残りなど、知らず知らずのうちに陥ってしまうのが飲酒運転の怖さです。

本誌は、あなたが陥りやすい飲酒運転の「落とし穴」を知ることができる、参加型教育教材です。

【詳しくはこちら↓】

<http://www.think-sp.com/%E5%87%BA%E7%89%88%E7%89%A9%E3%81%AE%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85/%E3%81%BE%E3%81%95%E3%81%8B%E8%87%AA%E5%88%86%E3%81%8C%E8%A7%A3%E8%AA%AC/>

---

### ■今日の朝礼話題から

———— 『免許人口あたりの事故発生率は？』 ————

最近の自動車台数当たりの事故発生率をみますと、1万台当たりの負傷者数は、全国平均で約100人前後となっています。言い換えれば、自動車が100台あれば、1人の負傷者が出ていと言えます。

【続きを読む↓】

<http://www.think-sp.com/2012/06/11/tw-menkyojinko-jikoritsu/>

